

令和7年（2025年）度行政評価シート

令和 7 年 6 月 3 日

評価者	歴史まちづくり推進担当部長 小林 昭嗣
評価者	市民防災部長 林 浩一
評価者	都市景観部長 古賀 久貴

○ 施策の概要

総計画上の位置付け	分野	0-(4) 歴史的遺産と共生するまちづくり	施策の方針	0-(4) 歴史的遺産と共生するまちづくり
-----------	----	-----------------------	-------	-----------------------

1. 前年度（評価対象年度）の当該施策の目標

歴史まちづくり推進担当

近年の世界遺産登録を取り巻く環境や、より効果的な取組の方向性等について専門家に意見を聞くなど、世界遺産登録に結びつく新たなコンセプトの構築に向けた調査・研究を行う。
神奈川県教育委員会が主催し、県内の中学生を対象として実施する「文化財保護ポスター事業」を共催し、世界遺産登録に係る啓発を行う。

市民防災部

地域活性化計画を推進することで、国内外へ日本遺産をテーマとした鎌倉の魅力発信事業を展開する。また、オーバーツーリズムの未然防止・抑制に資する取組みとして、日本遺産を活用した分散観光に係る事業を推進する。

都市景観部

・本計画の推進を図るため、本計画に搭載した構成事業の進行管理を行う。
・社会資本総合整備計画（街なみ環境整備事業）を活用し、事業を推進していくとともに、官民連携の推進について検討する。
・本計画の令和7年度の最終評価に向けた検討及び令和8年度から次の10年間の第2期計画の策定を進める。

2. 投入コスト

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	551	895	3,307	12,006	25,084	
人件費	16,993	17,016	15,732	24,228	25,235	
総事業費	17,544	17,911	19,039	36,234	50,319	0

3. 施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果

重点事業	整理番号	事業名	法定受託事務	事業費（千円）	人件費（千円）	総事業費（千円）	事業評価	貢献度	最終評価
	歴史-01	世界遺産条約登録事業		173	4,786	4,959	現状維持	B	現状維持
重	市民-10	日本遺産事業		24,675	12,584	37,259	現状維持	A	現状維持
	都景-02	歴史的遺産と共生するまちづくり推進事業		236	7,865	8,101	現状維持	A	現状維持

4. 評価対象年度の主な実施内容

歴史まちづくり推進担当

・世界遺産登録に結びつく新たなコンセプトの構築に向け、近年登録された他の世界遺産の事例、世界遺産登録の情勢等について、専門家に意見を聞くなど調査・研究を行った。
・神奈川県教育委員会が主催し、県内の中学生を対象として実施する「文化財保護ポスター事業」を共催し、世界遺産登録に係る啓発を行った。

※実施できなかった事業とその理由

市民防災部

鎌倉駅西口駅前に、鎌倉の日本遺産の発信拠点として、日本遺産「いざ、鎌倉」観光案内所を開設したほか、ツーリズムEXPOジャパン等への参加、市民を対象とした日本遺産シンポジウムの開催を行うことで、広く鎌倉の日本遺産の普及に努めた。

また、日本遺産特設サイトの多言語化、SNSによる日本遺産関連の情報発信、鎌倉を舞台としたアニメのデジタルスタンプラリーを実施することで、日本遺産情報を発信するとともに、歩く観光、分散観光につながる取り組みを行った。

運営統括等業務委託では、地域活性化計画に基づいた事業の企画立案支援や広報物・刊行物の整備支援など事業推進体制の強化を図った。

※実施できなかった事業とその理由

都市景観部

・鎌倉市歴史的風致維持向上計画の推進を図るため、令和3年度に国の認定を受けた変更計画に基づき、計画に登載した構成事業の進行管理を行うとともに、令和8年度を始期とする第2期計画の策定に向けて、「鎌倉市歴史的風致維持向上計画 第2期計画検討部会」を設置した。

・事業財源の確保のため、国支援事業である社会資本整備総合計画(街なみ環境整備事業)を活用し、事業の推進を図った。

※実施できなかった事業とその理由

中長期的な目標としている世界遺産への登録は、鎌倉の貴重な文化財を未来へ守り伝えていくために必要な取組であるが、登録を達成しうるコンセプトの構築には至っていない。

5. 主な実施内容と施策の達成状況の分析を踏まえた評価

※主な実施内容と目標とするまちの姿の関係(達成状況とその理由)

「施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果」における貢献度の分析

歴史まちづくり推進担当

中長期的な目標としている世界遺産への登録は、鎌倉の貴重な文化財を未来へ守り伝えていくために必要な取組であるが、登録を達成しうるコンセプトの構築には至っていない。

市民防災部

歴史的遺産と共生するまちを形成する上で日本遺産は、その一つの構成要素であり、日本遺産事業の推進は、目標とするまちの姿の実現に向けて貢献するものである。

日本遺産「いざ、鎌倉」のストーリーやその構成文化財の魅力を発信し活用していくことは、本市の歴史的文化的遺産への理解を深めることやシビックプライドの醸成にも繋がるとともに、観光の視点においても、構成文化財を活用した分散観光の推進など、本市が歴史的文化的に価値が高いまちであることを多くの者が意識することができ、歴史的遺産と共生するまちの形成に寄与するものであると考える。

都市景観部

・本計画の推進を施策の方針実現の柱のひとつとし、本計画では歴史的風致の維持及び向上に寄与する事業を構成事業として位置付けている。このため、構成事業を推進することにより「歴史的遺産と共生するまちづくり」の推進に寄与している。

6. 今後の方向性

歴史まちづくり推進担当

世界遺産登録を達成しうる新たなコンセプトの構築に向け、引き続き調査・研究を行う。
県内の中学生を対象として実施する「文化財保護ポスター事業」を神奈川県教育委員会と共催し、市内の教育機関等とも連携し、世界遺産登録に係る普及・啓発を進めていく。

市民防災部

重点事業として、日本遺産の構成文化財の魅力を伝える情報発信に取り組み、市民や観光客等の日本遺産の認知度と理解度を向上させるとともに、構成文化財を活用した分散観光や宿泊型観光の推進につなげることで、「住んでよかった、訪れてよかった」と思えるまちとなるよう、歴史的遺産と共生するまちづくりを進める。

都市景観部

・本計画に登載した構成事業の着実な推進を図るとともに、歴史的風致形成建造物の指定を行い、「歴史的遺産と共生するまちづくり」を進めていく。
・事業を着実に推進していくため、社会資本総合整備計画(街なみ環境整備事業)の活用を図るとともに、官民連携の推進について検討していく。
・本計画の計画期間の最終年度であることから、最終評価を実施するとともに、令和8年度から次の10年間の第2期計画の策定を進めていく。

7. 今年度(評価年度)の目標

歴史まちづくり推進担当

近年の世界遺産登録を取り巻く環境や、より効果的な取組の方向性等について専門家に意見を聞きながら、世界遺産登録に結びつくコンセプトの構築に向けた調査・研究を行う。
神奈川県教育委員会が主催し、県内の中学生を対象として実施する「文化財保護ポスター事業」を共催し、世界遺産登録に係る啓発を行う。

市民防災部

地域活性化計画を推進することで、国内外へ日本遺産をテーマとした鎌倉の魅力発信事業を展開するとともに、日本遺産の継続認定を目指す。また、構成文化財を活用した分散観光や宿泊型観光に係る事業を推進することで、オーバーツーリズムの未然防止・抑制や観光消費額の向上といった本市の観光課題解決を図る。

都市景観部

・本計画の推進を図るため、本計画に登載した構成事業の進行管理を行う。
・社会資本総合整備計画(街なみ環境整備事業)を活用し、事業を推進していくとともに、官民連携の推進について検討する。
・本計画の最終評価の実施及び令和8年度から次の10年間の第2期計画の策定を進める。